

# 令和7年度新潟県食育推進協議会 議事概要

日 時 令和8年2月9日（月） 午後2時30分～4時  
会 場 新潟県自治会館 別館 902 会議室  
出席者 委員名簿のとおり

---

## 1 開会（相馬課長あいさつ）

## 2 公開・非公開の取扱い

公開することを了承

## 3 議事

### （1）第4次新潟県食育推進計画の概要について

○事務局から資料1、2について説明

→主な意見は以下のとおり

○柱1の施策の展開・取組にある人材育成について、望ましい食生活に関する普及啓発をするためには、食の安心・安全も重要であり、その点を含めて人材育成を進めることが必要と考える。

○柱2の事業指標と評価指標について、目標へのつながりの悪さを感じる部分があり、農林水産関係の事業においても、食育の要素や、食育につながる仕掛けが入っているかどうかという点を事業の指標にするとよいのではないかと考える。

### （2）第4次新潟県食育推進計画の取組について

○事務局から資料2～4について説明

→主な意見は以下のとおり

#### 生涯にわたる健康づくりを支える食育の推進

○人材育成については栄養士会事業の重要な使命の一つであると考えており、人材育成に関する目標や、研修会以外の取組などがあれば教えてほしい。人材育成の方向性については、引き続き情報交換しながら進めたい。

○ふだんの食事で減塩に取り組む県民の割合について、もし減塩が定着してこれ以上減らす必要がない人が増えたのであれば、それはむしろ「成果」とも取れるのではない

か。数値が下がったことを「意識の低下」と捉えることについては慎重に判断してもよいのではないかと考える。

- ふだんの食事で減塩に取り組む県民の割合については、県民健康・栄養実態調査で、実際の摂取量を把握する調査もあるため、そこと併せて確認していくことが必要と考える。
- 減塩の目標値について、高齢者においては必ずしも「減塩」が正しいとは限らないため、20歳以上という幅広い括りではなく、年代別の目標値についても検討したほうがよいのではないかと考える。

### 持続可能な新潟の食を支える食育の推進

- 農村地域アドバイザーについて、地元食材を活用した調理実習や、直売所のマルシェなども行っているため、食に関する広報・普及啓発活動に積極的に活用してもらいたい。

### 新潟県の将来を担う若い世代への食育の推進

- 20代、30代の若い世代や学生について、SNS活用しなければ指標の達成は難しい。簡単な投稿でも良いので、彼らの目に触れる形の普及啓発に、考え方を転換しなければ、若い人には伝わらないと考える。
- 若い世代を取り込むにはSNS活用が必須であり、様々な数値を示すよりも、見栄えの良いものを示すことが、若い世代に情報を届けるために必要と考える。
- 小中学生の保護者には、食育だよりや広報誌などの配信等、デジタルを活用した食育に関する意識の醸成が必要と考える。
- 事業指標にある「小中学校等での食に関する指導の全体計画を作成・実施している割合」について、計画の「作成」はしていても「実施」が非常に難しいのが実態。今後は「計画」と「実施」に分けて把握したほうがよいのではないかと考える。
- 若い世代の学校給食以外の食事について、学校や義務教育課、高等学校教育課等と連携し、保護者を巻き込んで進めることができるとよいと考える。
- 若い世代への普及啓発については、楽しさや試食といった要素があることで参加につながりやすいことから、まずは体験してもらい機会を設けることが重要。そしてその学びを家庭で保護者に伝えてもらい、保護者にも参加してもらい機会を設けることが、若い世代への食育を推進していく上で重要であると考えます。

### 全体に関すること

- 会議の進め方について、何を議論してほしいのかが分かりにくいいため、食育について

議論を深めたいのであれば、事前に疑問点を集約してその回答について議論する等、やり方を検討したほうがよいのではないか。

- 目標と事業・指標の関係について、現状ではそれぞれの繋がりが十分に整理されていない部分もあることから、それを補完するアドバイザーが必要と考える。柱ごとに委員の中からアドバイザーを設定し、全体を俯瞰したアドバイスをもらいながら事業や指標を整理し、目標につながるようにするとよいのではないか。

#### **4 その他**

特になし

#### **5 閉会**